講義名	対)教養特講Ⅰ（経営学科へのいざない）				
担当教員	青木　良三／井上　芳郎／今西　珠美／ 上田　義朗／柿沼　英樹／多井　剛／ 濵本　隆弘／持田　信治／李　東浩				
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 ３時限		授業形態	講義	
履修開始年次	１年生	単位数	2	備考	

主題と概要

１．本講義は、経営管理を初めて学ぶ学生のために開講されます。
　経営の仕組みを身近な事例や日常的な事象と結び付けて学ぶことにより、本学商学部経営学科でのキャンパスキャリアの出発点となるものです。また同時にすべての学生に企業経営の面白さを理解してもらいたいと考えています。

２．本講義は、後続科目の学習の導入ガイダンスの役割を有します。
　商学部経営学科における「経営戦略」「起業・事業承継」「グローバル経営」「会計」の学習へと進んでいく上での手引きとしての役割を果たすものです。これら４コースを通じて、企業経営に関する幅広い知識と専門領域で要求される知識・実践的能力を身につけることで、社会に貢献できる人材となることが卒業までの目標です。

３．現実社会における経営課題を実践と理論の両面から優しく解説します。
　企業経営の基本を学ぶことから、講義内容は大きく現代の企業経営の重要性、企業の機能と役割など時事問題を取り上げながら、できるだけ分かりやすく解説します。毎回、資料を配付し、それに基づく教員と学生間、また学生間相互の意見交換を重視します。双方向的な講義を行います。

到達目標

１．課題と目標の発見。
　日々現実世界に起こる様々な経営に関することに触れて、自らの将来の目標・夢やキャリア・イメージをより具体的に持てるようになります。

２．問心と思考の習慣。
　経営・ビジネス関連の新聞報道や雑誌記事、日常生活に関心を持てるようになれます。

３．実践と理論の統合。
　実務社会のナゼを経営学のワケに求め、以前よりも深く考え、理解できるようになれます。

４．運用と成長の実感。
　仕事をしている家族やアルバイト先の先輩・同僚と経営の話ができるようになれます。

５．進化と向上の準備。
　これらの基礎知識と考え方の学習により、後続の経営学科の専門科目に興味を引き出し、より深く勉強する意欲と能力を身につけられます。

提出課題

１．各自事前に、レスポン、ポータル、アプリなどの使用方法等を熟知・理解し、毎回課題を提出できるように準備してください。

２．毎回、各担当先生から課題の指示が出ますので、指示に従い、〆切期間中に真面目に提出をしてください。

３．基本的に毎回の提出物によって、出欠と単位・成績を取りますので、毎回出席・勉強・提出を心がけてください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

１．毎回、各担当先生から前回課題へのフィードバックや振り返りを解説します。

２．毎回、全体的な状況や一部代表的な課題を見本として提示して、双方向・多方向的考える学習型授業の醍醐味を理解して、お互いに勉強しましょう。

３．毎回、自分の学習成果のチェックだけではなく、他人の意見や考え、先生のコメント・説明をも確認でき、PDCAのスパイラルアップ過程を通じて、毎回自分のやる気にもつながり、自己成長を実感できます。

評価の基準

１．①平日出席と提出課題及び、②期末試験、の質・量で総合的に評価します。

２．①の平常出席と課題が５５％ウェイト、②の期末試験が４５％ウェイトに占めます。
　期末試験不提出の場合、直接不合格になります。

３．②の期末試験はオンデマンド型のレスポンで提出になります。
　期末試験の中身である、内容・要領・期間・時間等について、大学の期末試験期間中（第１６週）にポータルに提示します。ネット等の不具合対策を意識したうえ、余裕をもって、〆切まで期間中に提出してください。
　念のため、期末試験そのものの通知は、第１１週から期末試験終わりまでポータルにも提示します。

４．この授業は多人数の先生方によるオムニバス授業なので、毎回成績評価・採点のシステムで進めます。
　そのため、一回欠席であっても、当該分の成績がなくなります。
　よって、毎回、授業出席・課題提出、加えて期末試験課題提出を、きちんと自己管理してください。

履修にあたっての注意・助言他

★コロナ対策として、対面クラスとオンデマンドクラスの同時開講をする。

★毎週学生の課題提出期間：
①対面授業クラス：　火～金の３日間。
②オンデマンドクラス：水～金の２日間。

★毎週当回先生のフィードバック準備期間：金～日の２日間。
また、次回担当先生へのバトンタッチ期間：月～火の１日間。

グローバルの競争時代に、第４次産業革命の始まりに置かれている以上、一層経営学科の知識と能力が要請されています。
以下のように、先輩たちの一部の授業感想を参考にして、履修上の心構えとして生かしてください。

１．たくさんの先生からたくさんの話を聞けるというのはこの授業だけなので、自分の知識量が少しでも増えたと思います。

２．経営の仕組みについて知ることができました。また、これからも勉強していきます。

３．経営学科へのいざないの授業を受けて様々なアイデアを生み出しました。または、経営の様々な場面を気づけるようになりました。

教科書

.使用しない。.				

プリント資料及び参考文献

１．毎回事前に、各先生がポータルの連絡通知に次回分のプリント資料を配付します。

２．各自アクセス・確認・ダウンロード・印刷・持参などをしてください。

３．参考文献として後期で使用する「経営学入門」の教科書を購入することを推奨します（シラバス参照）。

４．毎回、授業中に提示する参考資料を適宜確認・入手・勉強・参照をしてください。

授業計画

毎週のスケジュール：
１．月曜日１３時までに、ポータルに連絡通知とプリント資料等掲示（対面授業クラスの１日前時点）、
２．火曜日１３時３限に、対面授業実施（対面クラス課題提出開始）
３．水曜日１３時までに、オンデマンドクラスへ配信開始（対面授業クラス１日後時点）、
４．金曜日１３時までに、オンデマンドクラスと対面授業クラスの課題回収・当回先生による課題評価開始（対面授業クラス３日後時点・オンデマンドクラス２日後時点）
５．日曜日１３時までに、当回先生が次回の担当先生へ、フィードバック資料を送信（対面授業クラス５日後時点・オンデマンドクラス４日後時点）、
６．月曜日１３時までに、次回担当先生がポータルに連絡通知とプリント資料等掲示（対面授業クラスの１日前時点）。

授業計画
第１回・第２回　李　東浩：学科全般と国の競争優位。
　経営学科の全般構成と国の競争力をテーマに、様々な情報源より世界での日本、中国、米国の位置づけを明らかに、受講生の大局観を養成します。

第３回　青木良三：経営戦略。
　新聞記事を使って、実学としての経営学および経営戦略論の守備範囲とその特徴について解説します。

第４回　濵本隆弘：経営組織。
　経営組織の講義を行います。経営組織とは企業の組織のことで、多くの人が集まって協力して働く仕組みについて学びます。

第５回・第６回　上田義朗：日本企業の課題は何か：SDGsとESG投資。
　国際比較統計から見る日本企業の現状と展望。統計データを示しながら日本や日本企業の展望を対話式の講義で検討したいと思います。

第７回・第８回　持田信治：日本と海外のものづくり。
日本と海外のものづくりの違いに基づく、日本と海外の製造業に於ける経営戦略の違いを説明します。

第９回・第10回　今西珠美：国際経営。
　企業のグローバル経営について取り上げます。国境を越え、異なる政治・経済・文化の中で活動する企業の姿を捉えます。

第11回・第12回　多井　剛：経営情報。
　情報が第４の経営資源と言われるようになった歴史と情報を経営に活かした企業事例を学びます。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

１．毎回事前に、各先生がポータルの連絡通知にプリント資料とともに次回の予習や復習の課題を指示します。

２．毎回の予習時間は、授業時間（９０分＝２時間相当）の２時間ぐらいにしてください。
　毎回の復習時間も、２時間ぐらいにしてください。

３．予習の一例として、初回の李　東浩の講義では、「世界での日本・中国・米国の位置づけを考え、授業中に各自１分間ほど発言できる」のような質問に答えられるように、予習準備をしてください。
　復習の一例として、「今回・前回の講義の内容やキーワードについてしっかり理解して、場合によって自己調べ・勉強もしましょう。どうしても分からなく知りたい場合、メールなどで担当先生へ連絡をしてください」。

４．先生とメール等とのやり取りする際、正しいマナーを十分意識し、〇〇先生の宛先呼称・敬語表現・最後まで返信など、礼儀正しくの言動を取ってください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

１．大局観を養成し、時代の要請に応えつつ、柔軟で俊敏に変革する視野と能力で経営行動に移せます。

２．企業や組織の運営仕組みを自ら主体的な立場から関心を持ち、初歩的に理解能力を身につけます。

３．論理的な思考能力を育成し、組織メンバーと協力的に働きかけ、課題発見と課題解決に取り組めます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

１．対面型授業では、質問やクイズなどをします場合もあるので、積極的に考えて、発言をしてみてください。

２．オンデマンド型授業では、他人の発言を見て、自分も発言できるように授業に臨んでください。

３．先進的なレスポンなどのシステムを駆使し、リアルタイムで他人の課題結果をグラフなどで確認でき、授業の効率と学習意欲の向上に繋がります。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考

１．正しい姿勢と積極的に発言することを楽しみましょう。
　講義中に討論する問題の多くは「正解」がありません。いろいろな考え方があります。多面的に考えることが経営学のみならず大学の他の授業でも大事です。

２．多くの分野、斬新な内容、様々な情報、双方向・多方向的な知的な刺激、存分に楽しみましょう。

３．先生の力、自分の力、他人の力、といった皆の力で毎回、実力向上と自己成長を楽しく体験しましょう。